

| | | | | | |
|------|-----------|-----------|---------|---------|---|
| 1の1 | 山岡鉄舟父母墓道標 | 護国神社 | 城山児童館前 | | 東へ3丁に墓 |
| 1の2 | 忠孝苑碑 | 護国神社 | 神橋の西側 | 明治35年2月 | 忠孝苑の命名は明治十二年四月、神道中教院が伊勢神宮御分霊を奉遷して忠孝苑大神宮と称した時からである。題字は雪鴻。碑高一・八メートル。 |
| 1の3 | 警友慰霊碑 | 護国神社 | 境内 | 昭和48年3月 | 殉職警官の霊を慰めるために警察関係有志が建てた。題字岐阜県知事・平野三郎。碑高二・五メートル、台石は、もここに建っていた明治十九年(一八八六)、コレラ防疫中に感染して殉職した石原基輝巡査の碑を改築し、その台石を用いた。 |
| 1の4 | 長瀬章碑 | 三之丸 | 護国神社境内 | 明37 | 大秀門下の長瀬松園の子。書道を岩佐一亭に学ぶ。 |
| 1の5 | 戦馬忠魂碑 | 護国神社 | 境内 | 昭和十四年 | 高山市牛馬組合、同馬力組合、村坂栄四郎らが発起し、高山市、大野郡各町村、同畜産組合などが協賛して建てた。題字は陸軍大将、松井石根。碑高約五メートル。 |
| 1の6 | 梅村速水碑 | 三之丸 | 護国神社境内 | 明15 | 篆額の題字は岩倉具視 |
| 2の1 | 福来友吉碑 | 二之丸 | 福来記念館前 | 昭32 | 心霊学と念写で世界的に有名 |
| 2の2 | 牧野良三碑 | 二之丸 | 東側提上 | 昭37 | デザインは本の形。飛騨一市三郡が建てた。 |
| 2の3 | 直井佐兵衛碑 | 二之丸 | 東側提上 | 昭16 | 撰文は森彦兵衛の書 |
| 2の4 | 松田常憲歌碑 | 二之丸 | 公園入口 | 昭和35 | 斐中卒業生有志が建てた。碑高二・五メートル。常憲は大正七年(一九一八)から三カ年斐中の国語教師で退職後は、名古屋で「水蠶社」を主宰した。うつしうゑし庭のあららきは枝たれてひととすかし月の光に |
| 2の5 | 征清陸海軍士招魂碑 | 二之丸 | 稲荷神社境内 | | 飛騨忠勇軍士会記念 |
| 2の6 | 飯沼奇平碑 | 二之丸 | 稲荷神社境内 | 明30 | 田中為助、中島松之助、砂原時之らが建てた。 |
| 2の7 | 山田秋籟碑 | 二之丸 | 稲荷神社境内 | 明28 | 銘に「発蒙養心 群英如林 誰護翁徳 山高水深」とある。天保のころ高山に学塾を開き、多くの門人を育てた。石工は砂原源吉。 |
| 2の8 | 西本小夢句碑 | 城山二之丸稲荷神社 | 境内 | 昭和33年秋 | 嗣子の西本玄夢が建立。高さ二・一メートルの仙台石。小夢は雲橋社八代の宗匠。「手を拍てば池に声あり寒の月」 |
| 2の9 | 和合塔 | 城山二之丸稲荷社 | 境内 | 大正13年7月 | 保寿寺住職の洞派仏舟が建立したもの。碑高八十センチ。裏面に句がある。「三界の迷悟は人の案山子哉」 |
| 2の10 | 大護摩三千座供養塔 | 二之丸 | 稲荷神社境内 | 明28 | 上麻生「宝生寺」の修験者田口秀全が、城山で 三千座を終了、記念して建てた。その時日清戦争が終了している。その後、目的の飛騨一万座を達成。 |
| 2の11 | こだいじん歌碑 | 城山照蓮寺 | 境内 | 昭和36年 | 同寺の壇徒により建てられた。水没地莊川村中野から同寺を移築した際、莊川地方の民謡「こだいじん」の中の“千重のつつじ”も同時に移植し、この歌を碑とした。石碑の高さ二・五メートルの仙台石。 |
| 3の1 | 高山城趾標石 | 中佐平 | 登り口の三差路 | 昭和9年 | 岐阜県が建てた。傍らには高山城の由来を略記した標札が立っている。高さ二メートル。 |

| | | | | | |
|-----|----------------|---------------|----------|----------|---|
| 3の2 | 鳥獸珠碑 | 城山遊歩道 | 入口 | 昭和40年5月 | 飛騨獺友会が建てた。デザインは植輪の家型である。碑高一・八メートル。 |
| 3の3 | 広瀬中佐銅像 | 城山公園二之丸 | 西側上方の小平地 | 明治38年3月 | 同級生の福田吉郎兵衛らが発起して建てたが、昭和十八年(一九四三)戦争に供出し、同四十二年、海友会により再建された。台石は元のままで中佐の詩が刻んである。〈指揮福井丸再旅順口閉塞〉七生報国一死心堅 再期成功 含笑上船 |
| 3の4 | 傷痕の碑 | | | | 平和 護国 日本傷痕軍人会飛騨支部 |
| 3の5 | 白雲山桜花の碑 | 二之丸から号砲平への登り口 | 登り口左側 | 天保7年 | 城山に桜を植えた貝塚素牛の徳をしので、天保7年(一八三六)、大井郡代の元締・菊田秋宣らによって建てられた。碑高二メートル、幅一・二メートル、次の素牛の句のほか連歌体で同志十一人、霞松、湖月、蘭齋、巴喬、梅里、忠怒、玉爪、ますほ、柳芳女、蓬交、風谷の句がある。植てなほ花に命のをしきかな |
| 3の6 | 岡田禾木句碑 | 城山西側遊歩道大手門 | 石垣の下 | 昭和38年春 | 岡田秋二郎が建てた。碑高三メートルあまり。禾木は花蔭会に属し、またやまずみ会同人でもあった。次の句がちらし書きにしてある。立つ冬を残る木の葉のささやけり |
| 3の7 | 高山ライオンズクラブ記念句碑 | 城山西側遊歩道 | 小平地 | 昭和43年春 | 高山ライオンズクラブが国際認証十周年と明治百年を記念して、城址一帯に桜樹千本を植え、この句碑を建てた。高さ一・四メートル、横幅二・八メートル。碑はあたかも路傍の自然石のように据えられ、碑の面には加藤千歩の句がある。「花の山花のところに人住みて」 |
| 3の8 | 垣内松三碑 | 臥牛岡 | | 昭41 | 「石叶ばん」全国の教え子たちによって建てられた。台石を使わず芝地に据えられている。二之町の代情家に生まれ、長じて垣内雲燐の嗣子に。牧野英一と斐中で同窓。東大卒、国語学の権威。 |
| 3の9 | 飛騨山娘歌碑 | 城山公園西側の遊歩道 | 如意ヶ岡の西方 | 昭和43年5月 | 高山市民合唱団が建てた。碑高一・五メートル、この歌を碑とした。石碑の高さ二・五メートルの仙台石。幅二メートルの山石に吉村比呂詩の作詞の一節を銅版に彫ってはめ込み、二個の枕石の上に据え、脇碑には作曲者・山下笛朗の楽譜を刻んで建てた。わたしゃ奥飛騨山娘 都はなれた山里の 深い谷間に咲いた花 人に知られぬ山つつじ(第一節) |
| 4の1 | 白雲水標石 | 城山の裏手 | 白雲水の傍ら | | 高山城の水の手となった清泉が湧き出る所であるが、命名は明治末期公園に制定されてからで、標石も当時のものである。高さ一・三メートル。 |
| 4の2 | 福田夕咲歌碑 | 月見平 | | 昭23 | 飛騨短歌会が建てた。 「み仏の思惟の姿に似たらずや 静けきかもよ岳の夕ばえ」 |
| 4の3 | 彫祖之碑 | 城山公園 | 春日平 | 昭和43年11月 | 飛騨一位一刀彫協同組合が建てた。碑高一・五メートル。題字は中村清山。 |
| 4の4 | 館柳湾詩碑 | 大隆寺 | 前庭 | 明治23年 | 阪東喜八郎が建立。碑高二・一メートル。柳湾は越後新潟の人、飛騨郡代・小出大助の元締として、寛政一二年(一八〇〇)から文化元年(一八〇四)まで、高山陣屋にいて政務にあたった。碑の詩は文化元年暮春の作。 「尋来上方寺 静寂古城陰 山晚萬松暗 僧帰一径深 浄香薫夜殿 寒聲徹秋林 頌覚迷途遠 龕灯照客心」 |
| 4の5 | 薦塚句碑 | 大隆寺 | 境内 | 天保13年5月 | 雲橋社中が建てた。碑高一・二メートル、芭蕉の句がある。「薦を着てざれ人ゑます花の春」 |